

小川一成県議 ラオス協力現場視察



敬けんな仏教の国、ラオス。この国では僧侶が人々の尊敬を集めています。私たちが失った真の豊かさを思いだされる国です。

写真は朝の托(たく)鉢風景

小川一成県議は昨年十一月十五日から十日間、「青年海外協力隊を育てる会」主催の「ラオス協力隊活動現場視察の旅」の団長として、ラオスを訪問しました。視察の旅は全国から十名が参加しました。

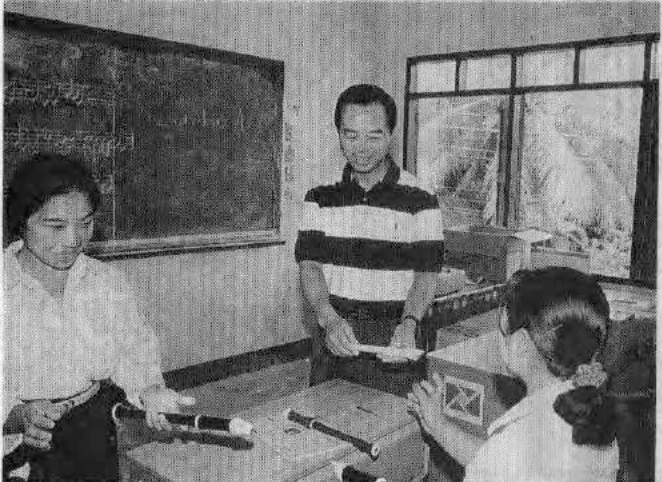
ラオスは世界の最貧国の一つで、現在、日本からの協力隊は、二十歳から三十九歳までの四十五名の方々が活躍しています。その活動内容は農業、建設機械、臨床検査、看護婦、助産婦、柔道や空手の指導、音楽、自動車整備など多岐にわたっています。

この時期、ラオスは雨季が終わり、乾季に入ったばかりで、爽やかな風が光っております。ラオスの首都ヴェンチャン市から空路五十分のところに、町全体が世界遺産に指定されたルアンプラバンがあります。ここには五人の協力隊員が王宮博物館の資料整理、メコン川の淡水魚養殖、果樹栽培の指導、助産婦、医療検査技師などとして、現地の人々と共に汗を流していました。

国際協力の懸け橋

青年海外協力隊を支援!

茨城県では、ラオスに集中的に支援することを決めています。その一環として、アジアの国に楽器を贈ろうという水戸にあるNGOの支援を得て、ピアノ二十台、リコーダ四十五台を現地に持参し、ラオス全土から音楽の教師をめざす人が学ぶヴェンチャンの音楽学校とルアンプラバンのチャイルドセンターに届けました。写真はヴェンチャンの音楽学校での贈呈の様子



また、県の「青年海外協力隊を育てる会」では、昨年八月に柔道を五十着贈りました。ラオスの青少年に柔道を教えている小林隊員の指導のもと、アセタン大会では銀メダル二個、銅メダル二個を獲得しました。写真中央は小川県議、二列目右端が小林隊員

日本はラオスでのポリオ撲滅に、大きな貢献をしました。その記念式典が視察中に行われました。写真左から、ラオス首相小川県議、宮本駐ラオス大使、ラオスの厚生大臣

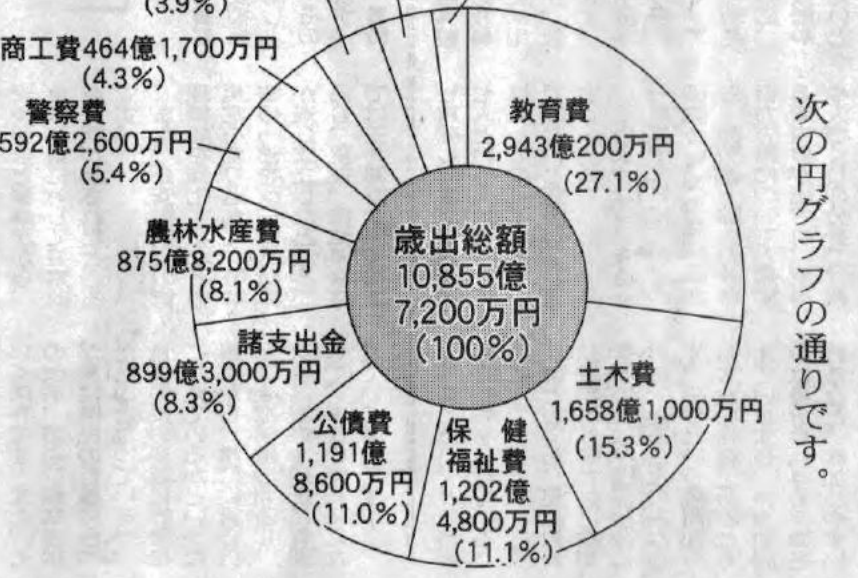
青年海外協力隊

発足以来、三十五年間で世界七十五カ国、延べ二万人の隊員が世界の途上国で、現地の人と溶け合い同じ目標で黙々と汗を流している。

小川一成県議の第四回定例会県議会での質問項目

昨年十二月に行われた県議会第四回定例会(十二月議会)で、小川県議は一般質問を行い、論戦を展開しました。以下はその項目です。

- ◎新世紀を迎えるにあたって知事の人生哲学と県民へのメッセージについて(橋本知事に対して)
- ◎地方分権時代における「ことば」の行政改革について(橋本知事に対して)
- ◎発生主義会計の導入について(橋本知事に対して)
- ◎常磐新線について(花岡企画部長に対して)
- ◎常磐新線開業に向けての現状と今後の見通し
- ◎魅力ある街の顔づくりのための駅舎・駅前広場のあり方
- ◎教育問題について
- ◎教育改革を踏まえた本県の基本的条件整備(志田教育委員会委員長に対して)
- ◎青年海外協力隊の事業を活用した教員の育成(川保教育長に対して)
- ◎警察問題について
- ◎公安委員会の今後のあり方(根本公安委員会委員長に対して)
- ◎活力ある警察組織の確立について(玉井警察本部長に対して)



●県予算の使い道
第一回定例会県議会が三月二十三日に閉会し、新年度予算などが決まりました。一般会計の予算規模は一兆八百五十五億円余りに上りますが、主な使い道は次の円グラフの通りです。

文教治安副委員長に就任

小川県議は三月の第一回定例会で、教育庁と警察が所管の常任委員会、文教治安委員会の副委員長に選任されました。四月六日には早速、議長の代理として県警察学校の入学式に出席し、八十六人の入校生を前に、三百万県民のために全力を尽くすようお願いをしました。

小川県議の一般質問 「新千年を迎えるにあたり、知事の人生哲学について」
知事の人生哲学と県民へのメッセージを聞いたこと。知事としての人生哲学を聞いたこと。知事としての人生哲学を聞いたこと。

警察問題を取り上げたこと。警察にたいする住民の要望の急激な変化と増大などで、警察は今大きな改革を求められています。公安委員長が県議会において一般質問の答弁に立つのは、今回が初めてです。前例やタブーを破ってこそ、改革が進められます。

各紙注目 質問戦を 各紙注目 質問戦を 各紙注目 質問戦を



茨城県警察学校初任科 入学式

